九州共立大学
スポーツ学部研究紀要
No.5　　2011年3月

[調査研究資料]

幼児の遊びや生活体験と性差との関係

花田　道子[1)]，山田　志麻[2)]

Sexual difference of physical play and life experience in preschool children(first report)

Michiko HANADA[1)] and Shima YAMADA[2)]

1．緒　言

現代の子ども達を取り巻く社会環境は，都市化や少子化，経済的な格差の拡大などにより大きく変化している．また，両親が共働きの家庭の増加や核家族化の進行といった家族の形態の変化，パソコンや携帯電話の普及といった情報の氾濫などが，子ども達の発育に大きな影響を与えている．社会環境が大きく変化する中で，子ども達は，戸外での遊びが減り，部屋の中でゲームやマンガ等で過ごすことが多くなった．また，友達と交わりながら体の様々な機能を使って遊んだり触れ合ったりすることが少なくなっている[1)]．

これは自然環境の悪化や生活のスタイルの変化といった，子どもが自然の中で自由にのびのびと遊べる機会を極端に少なくしていることや，それに伴い直接体験の不足が様々な弊害をもたらしているのではないかと考えられる．

その一つに体力の低下も考えられるが，体力要素の中に精神的要素を含める考え方（概念）もある．つまり，体力には「からだ」だけでなく「こころ」の要素も含まれることになる．このように体力は，人間のあらゆる活動の源であり，健康な生活を営む身体的な面においても，また意欲や気力といった精神的な面においても深くかかわっており，人間の健全な発育・発達を支え，より豊かで充実した生活を送る上で重要なものである[2)]．

幼児期に活発な身体活動を行うことは，健全な発育・発達に必要な身体的能力を高めることはもとより，運動・スポーツに親しむことを通して，運動有能感を高め，将来を通して運動を楽しむ態度を養うことにつながる[3)]．これらのことからも，幼児期の運動遊びや生活体験は子どもの成長に影響を与える要因であると考えられる．

R.シュタイナーによれば生れてから７歳までの発達課題を「意志」の育成としているが，幼児期の生活体験の質の変化に伴い子どもの意志力（社会と出会える力）が弱まり，子どもの「育ち」に深刻な問題をなげかけていると考えられる．

そこで，本研究では幼児期の遊びや生活体験の実態を把握し性差との関係を明らかにすることを目的とした．

2．方　法

1）対象

北九州市内の2つの幼稚園に通園する年長児を対象に幼稚園に通う年長児で調査結果が揃っている60名（男児33名，女児27名）を分析の対象とした．調査方法は記目式質問紙調査である．調査票は各園を通して保護者に配布し，1週間前後の留め置き後，各園の担任を通して回収を依頼した．調査票の回収数は97部，回収率は76.4％であった．

2）調査時期

2009年3月

3）質問項目

R.シュタイナーの提唱した12感覚のうち，意思感

1）九州共立大学スポーツ学部
2）九州女子大学栄養学科

1）Kyushu Kyoritsu University Faculty of Sports Science
2）Kyushu Women's University Department of Nutrition

覚（触覚・生命感覚・運動感覚・平衡感覚）に関連する遊び，行動，社会性，創造性，想像力及び情緒などの子どもの状況の38項目について「よくする，時々する，あまりしない，全然しない」の4段階評価でアンケート調査を行い，それぞれに4～1点を割り当て得点化し，遊びと生活体験の項目をシュタイナーの意思感覚に該当する『触覚』，『生命感覚』，『運動感覚』，『平衡感覚』のカテゴリーに分類し子どもの状況について分析を行った．

4）統計解析

分析には統計解析ソフトSPSSを用い，全ての項目の性差についてχ^2乗検定を行った．

4．結果及び考察

本研究は，幼稚園に通う年長児を対象に幼児期の遊びや生活体験の実態を把握し性差との関係について検討した．

研究対象とした2つの幼稚園は，どちらも園庭が広く，運動教育を重視していた．園において子どもたちは，積極的に縄跳び，自転車乗り，鬼ごっこ，ドッジボールなどの外遊びをしていた．

R.シュタイナーの提唱した12感覚のうち，意思感覚（触覚・生命感覚・運動感覚・平衡感覚）に関連する遊び，行動，社会性，創造性，想像力及び情緒などの子どもの状況について解析した結果をTable1に表した．

Table 1. 意志感覚に関連する遊び・生活体験・子どもの状況の性差

カテゴリー	遊びの種類および行動に関する項目	性差	χ2乗値	P値
触覚	泥遊び	男＜女	8.64	0.03
生命感覚	虫とりの体験	男＞女	9.17	0.03
時間遊び	単純な遊びを繰り返す	男＞女	6.53	0.04
知的遊び	テレビ・ゲームなどバーチャルな遊び	男＞女	12.16	0.01
平衡感覚	坂道や階段の上がり下り	男＞女	4.86	0.09
子どもの状況	創造性	男＜女	5.10	0.08
子どもの状況	柔軟性	男＜女	7.30	0.06

遊びの項目で性差が表れた4項目について，Fig1の「泥遊び」は，男子よりも女子の方がよくした割合が多かった（χ^2=8.64,p=0.03）．

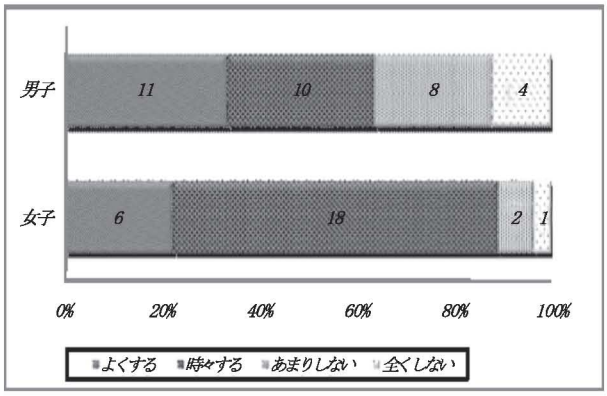

Fig 1. 泥遊び

Fig2の「虫とりの体験」は，男子の方がよくした割合が女子に比べ多かった（χ^2=9.17,p=0.03）．

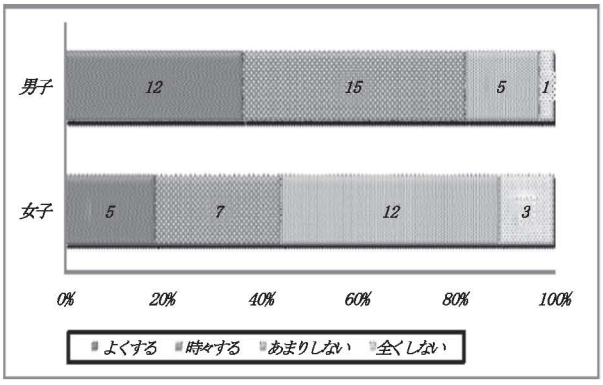

Fig 2. 虫とりの体験

Fig3の「単純な遊びを繰り返す」は，男子の方がよくした割合が多かった（χ^2=6.53,p=0.04）．また，Fig4の「テレビ・ゲームなどのバーチャルな遊び」についても，男子の方がよくした割合が多かった（χ^2=12.16,p=0.01）．すなわち，『触覚』に関連する遊びは男子より女子の方が体験しており，また，男子の方が意思感覚のうち『生命感覚』，『平衡感覚』に結びつく遊びや生活体験をしていることが明らかになった．

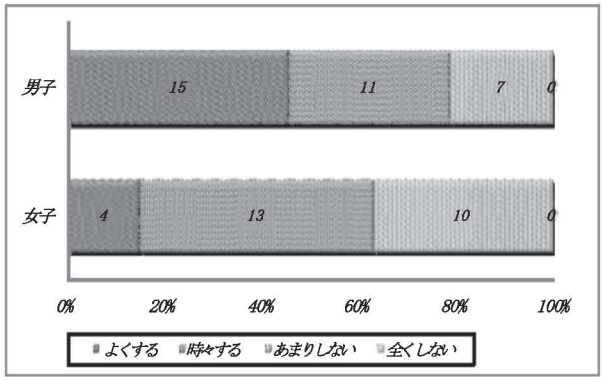

Fig 3. 単純な遊びを繰り返す

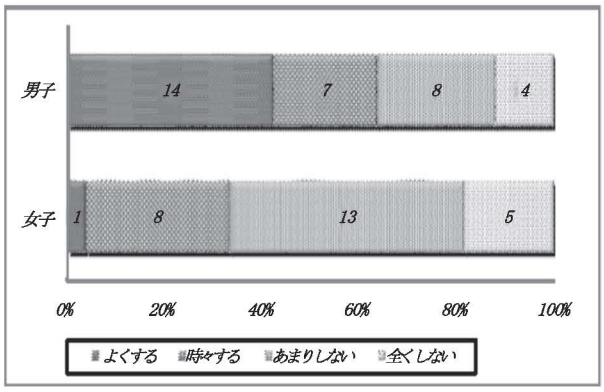

Fig 4 .テレビ・ゲームなどのバーチャルな遊び

Fig5の「創造性」について，『自分で遊びを生み出して遊ぶ』ことについては女子の方が良い割合が多かったことから，女子は泥遊びなど日常生活で使用している様々なものを造形する遊びをとおして創造性が培われているのではないかと考えられる．

鍵小野ら[4]によると，『運動感覚』に関わる遊びは全ての子どもの状況と正の相関を，『生命感覚』『触覚』『平衡感覚』に関わる遊びと『受容される感覚』はほとんどの子どもの状況と有意な正の相関を認められたことから，『運動感覚』『生命感覚』『触覚』『平衡感覚』などの意志感覚の育成が創造性や想像力，友人との関わり，思いやり，対話力等を育てるとされている．

しかしながらそれらに関しては，従来先天的な性差によるとする説と後天的な養育環境の中で形成されていくのではないかとされる説があり，本調査では幼児期における遊びや生活体験については，性差が見受けられ，「泥遊び」以外の項目については全て男子の方がよく体験していたにも関わらず，子どもの状況において「創造性（自分で遊びを生み出して遊ぶ）」「柔軟性（しなやかさ）」Fig6とも女子の方がよい割合が多かったことから，遊びや生活体験と子どもの状況には性差との関係性は見いだせなかった．

今後は，後天的な養育環境すなわちさまざまな遊びや生活体験を行うことによって得られる影響についての関係性を更に見ていきたい．

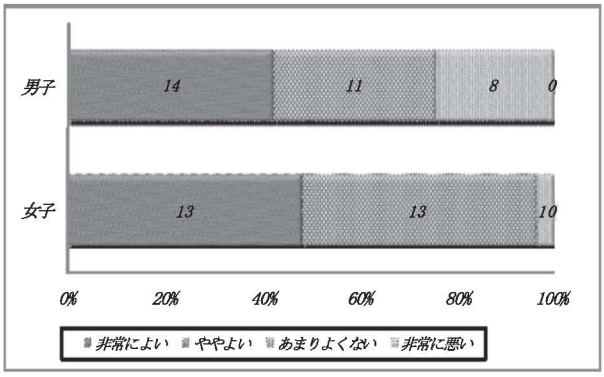

Fig 5. 創造性

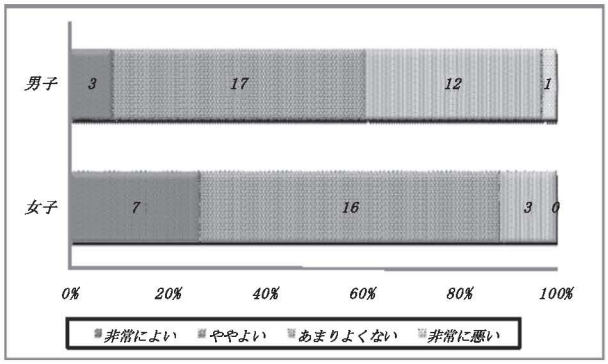

Fig 6. 柔軟性

5．まとめ

幼児期の遊びや生活体験の実態や性差との関係について下記の知見が得られた．

1）遊びの項目では，「泥遊び」は，男子よりも女子の方がよくした割合が多かった（χ^2=8.64,p=0.03）．

2）「虫とりの体験」は，男子の方がよくした割合が女子に比べ多かった（χ^2=9.17,p=0.03）．

3）「単純な遊びを繰り返す」は，男子の方がよくした割合が多かった（χ^2=6.53,p=0.04）．

4）「テレビ・ゲームなどのバーチャルな遊び」についても，男子の方がよくした割合が多かった（χ^2=12.16,p=0.01）．

これらの結果から『触覚』に関連する遊びは男子より女子の方が体験していた．また，男子の方が意思感覚のうち『生命感覚』，『平衡感覚』に結びつく遊びや生活体験をしており，『自分で遊びを生み出して遊

ぶ』など創造性や『しなやかさ』などの柔軟性は男子よりも女子の方が良いことが示唆された.

謝辞

本研究にご参加いただきました園児・保護者のみなさまに感謝致します．本研究の実施に際し多大なるご協力をいただいた幼稚園の教職員，九州共立大学・九州女子大学学生のみなさんに深謝いたします.

本研究は，平成21年度九州女子大学特別研究費から研究助成を受けて実施したものである．本論文の一部は，日本野外教育学会13回大会において報告した.

参考・引用文献

1）齋藤素子（2008）：よりよい人間関係をつくるためのファシリテーション－様々な体験学習を通して－．研修報告書．1.

2）伊藤秀志（2007）：遊びの相手や内容が幼児の体力・運動能力に及ぼす影響について～子どもの体力・運動能力の変化，発育・発達の特性等からの考察～．研究レポート．53-61.

3）財団法人日本レクリエーション協会：子どもの体力向上ホームページ
http://www.recreation.or.jp/kodomo/intro/how.html

4）鍵小野美和，川出富貴子（2008）：幼児期における遊びの質および生活状況と「意志」育成との関連．川崎医療福祉学会誌．vol.18 No.1 ．245-250